

令和元年度 第1回総合教育会議 会議録概要

1 開催日時 令和元年7月19日（金） 午前9：00～10：30

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬哲
同職務代理 吉越邦榮
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員

教育部長兼文化振興部長	常田新司
子ども育成課長	岩崎敏
課長補佐兼学校教育係長	大口なおみ
学校教育係	宮澤麻由

5 会議の経過及び発言

1 開 会

子ども育成課長）

ただいまより、令和元年度第1回目の総合教育会議を開会します。

なお、内容及び資料等の一部につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（総合教育会議）第1条の4第6項により非公開の予定です。

それでは足立市長から挨拶をお願いします。

2 あいさつ

本日は令和元年度第1回目の総合教育会議という事でございます。

議題等たくさんあるわけですが、教育大綱の進捗状況等、それから保育園・幼稚園、小学校・中学校・高校と学校や教育をとりまく環境が変わりつつありますので、そのあたりも含めご意見をだしていただければと思います。

それでは、本日もよろしくお願いします。

3 議 題

1）飯山市教育大綱の進捗状況について
事務局から説明（非公開資料）

【資料1】

市長）

進捗状況の説明がありましたが、何か意見はありますか。

教育長)

学力向上については、4層分析の中で低い部分をどこまで引き上げるかということ、現場の先生方は大変な課題だと思いますが。下高井農林高校を視察した際に、新入生が小学校・中学校の学びなおしをしている授業風景をみて、厳しい現実を見せつけられたと感じ、大変申し訳なく思いました。

2) 飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会について
事務局から説明

【資料2】

市長)

今年いっぱいを目処にたたき台を作るということです。タイムスケジュールがタイトで大変ですし、たたき台を作ってからが大変だと思いますが、かといって、子どもの数の推計ができるところもあるので…。

このあとの高校の関係とも絡んできますが、中学校は、当面は現状維持かと思いますが、小学校は人数だけで考えると厳しい状況ですね。人口が飯山市よりも多い中野市がすでに統合していますから。飯山市もできるだけ地域密着で進めたいという事でしたが、ある程度、将来の方向性を示しながら進めていきたいところです。

何かご意見はございますか。よろしいですか。では次お願いします。

3) 幼児教育・保育の無償化について
事務局から説明

【資料3】

市長)

国が消費税増税にあたり、増税分の使途の一つとして保育料無償化ということのようですが、保育料無償化というのは、現在支払っている家庭の皆さんの話で、市の負担する話ではありません。

飯山市が言う保育料には、給食費も含めていますが、国が言う保育料は純粹に保育料で給食費は含めていません。つまり国のいう保育料無償化は、保育料だけは無償化しますよ、給食費は支払ってくださいよ、というものです。

そのとおり進めるのであれば問題はありますが、飯山市の場合は、子育て支援ということで、第3子以降の保育料は、(2子同時通園等もありますが)給食費も含めての無償化ということで、既に取り組んできているところです。

今回、国が無償化しようとしているのは、3歳以上の園児に対する保育料無償化で、3歳未満児の保育料に関しては徴収するということです。

資料、少しわかりづらいですが、これを見ていただくと10月以降、3歳未満児の保育料は、変わらず負担いただくというものです。つまり、3歳未満児を保育園に預けるご家庭では「無償化ではないではないか」という反応もできます。しかし、国が進めているのはあくまで3歳以上児のことである、ということです。そして、もう一点は国が言うところの保育料というのは純然たる保育料であって給食費は対象外ということです。

飯山市では、給食費を含めたものを保育料と称して徴収していたので、国の方針どお

りすると、給食費は無償化から外れてしまうため、飯山市では給食費分をどうしようか、ということです。無償化するのかどうか。そのあたりで、現在算定を進めているところです。

仮に、3歳以上の子ども達は、保育料を給食費含め無償化した場合、保育料は国の補助で給食費は市から補助することとなります。そうした場合、では3歳未満児はどうするのか、国に準じて無償化対象からはずすとなると、3歳未満児の家庭には恩恵がない。3歳未満児の保育料を無償化するとすると市が保育料も給食費も100%補助することになります。

また別の案として、3歳未満児の保育料は負担いただき、給食費について3歳以上児も未満児も、市が負担しますというところまで、踏み込むかどうか。

市が新たに負担していくとなると、お金が関わってくる話なので、10月に向けて算定をいただいているところです。

最終的には9月議会にて最終決定いただくわけですが、その前に保護者の皆さんには、「こうした方向で検討しています」ということを、お知らせしていかなければいけないのではないのかな、と感じているという状況です。大変複雑な制度だなと感じます。

吉越職務代理)

3歳未満児のお子さんの給食費がかかってくるのは、仕方がないと申しますか、保育園に預ける以上、当然のことだということを保護者の皆さんに、覚悟といいますか、ご理解いただくのが必要ではないかと思います。

今、現場の先生方が苦勞されているのは「未満児にどう対応するか」だと思っています。やはり園児何人に対し先生1人、と定められていて、未満児は、先生の人数がより必要とされる部分ではないですか。そのところが「お金がかかるから出すな」ということではなく、やはり、そういう年代のお子さんを保育園に預けているんだよ、ということは感じていただくことが必要ではないかと思います。

申し訳ないですが、制度があると預けよう、といいますか、個人的に接する中で感じたのは、飯山市は第3子以降が無償なので「先生、3人目できたからお願いね」というような感覚のお母さんに複数人、行き会っています。無料だから、子どもができたら保育園に預けといたらいいんだ、というような意識になるのではなくて、あくまでも、育児というのは家庭にあって、その家庭の状況の中で、やむを得ず保育園にお願いするんだということを大前提にしておきたいな、と思います。

だから、保育料無償になったというけど「あれ、うちは無料になってないな」って、それはそうですよね、全国一律なので。

飯山市だけが3歳未満児無償化にならないということではなく、制度として、そうした制度ということですから。まずは、そうした制度を説明していくということが一番よいのではないのかなと思っております。

市長)

まあ、本来、3歳未満児は家庭で保育するのが理想であって、祖父母などの協力を得て家庭で保育されている方は、当然ながら食事代も家庭で負担しているわけですからね。

教育部長)

国が3歳以上児に対して給食費を無償化しないのは、そうした見解からという事です。

市長)

それでは課題はありますが、内部で検討させていただいているところだということで、よろしいでしょうか。

4) 岳北地域の高校の将来像を考える協議会の経過について
事務局説明

【資料4】

市長)

飯山市長が議長という事で、会議には私も出ておりまして、第2回目は飯山高校と下高井農林高校を現地視察したわけですが、下高井農林高校は地域に重要な高校であるという委員の意向がありまして、2校存続を総意として、第3回目は具体的に存続に向けた検討だったわけです。しかし、委員は私を含め高校教育の専門家ではなく、県の高校の制約も知りませんし、もう一つは、この協議会自体も地域の意見や要望をとりまとめ県教育委員会へ出す、という位置づけですので、最終的には県が判断するという事で、要望を出す会という位置づけですが。

存続にはどのようなパターンがあるのかということで、第3回目に具体的な話ができたよかったのですが、詳しい状況や説明がされなかったので、第4回目に再度やりましようということになっています。

存続方法は、一つには下高井農林高校を完全に残すとなると、定員は最低 120 名が必要で、あと60名程度を募集する必要がある。飯山南高を存続させるために、体育科を設けて全国から生徒を募集するという熱意で寮を作って、ある意味成功はしましたが、人数は課題が残っています。白馬高校の観光科のように特色を出して全国から生徒募集するとなると理想的ですが寮なども必要となる。当然ながら、そうすると市町村負担も出てくるということです。

もう一つは、飯山高校と下高井農林高校が統合して新しい高校を作り、高校の飯山キャンパス、農林キャンパスとする、イメージとすると飯山高校が統合したときに南キャンパス・北キャンパスがあったように、そうした方法もあります。それで全体の生徒数120名要件をクリアするというような、一つの高校で校舎が二か所にあるイメージです。

もう一つが、地域キャンパス化というもの、分校というか。

教育部長)

そうですね、飯山高校の農林キャンパスということで、農林高校の名称はなくなります。

地域キャンパス化という方法は、分校という形です。地域キャンパス化しているのは長野県内で2校あるということで、次回第4回目に県教委が説明してくれると思いますが、校長は一人で、副校長がそれぞれのキャンパスにいて、ほぼ今の高校形態とはそんなに変わらないという方法になります。校歌やクラブ活動も、校舎ごと独自というような今と変わらない状況で校長と事務長が一人というくらいです。

市長)

次回は、県から存続方法のそれぞれの説明を受けて、ということかな。

説明を受けて、意見交換になりますが、その前にキャンパス化等、どこか高校を視察

してみたいですね。机上で討論していてもね。まあ、そのような進捗状況です。

教育部長)

スケジュール的には、13ページにありますが、県では12月までには方向性が欲しいということで、来年2月には1次統合方針をだし、令和2年度末には完全な方針をだすとの計画です。

市長)

これについて、いかがですか。

木島平村長の意向とすると、農林高校は地域に必要な高校であるという思いが強く、我々も農業関係等、卒業生の約7割が地域に戻って就職されているということもあって大事に考えなければいけないなと感じております。

高校生チャレンジ事業も、飯山高校生、農林高校生かなり頑張っており組んでおりますので。

吉越職務代理)

国立高等農業専門学校というような検討は、なされないのですか。

教育部長)

高専となると、国立になりますので、今回の県の高校再編という検討内容からは離れてしまうということです。この協議会は県の要請を受けて設置された、公立高校の協議です。この会での議論とは若干異なるかな、と思います。

市長)

議題については以上でございますが、ほかにいかがでしょうか。
よろしいですか。それでは事務局に戻します。

4 その他

教育部長)

それでは議題・資料はありませんが、1点お願いします。

プログラミング教育について、資料ありませんが。

今年度、プログラミング教育を推進するために長野高専の宮崎先生にお願いして、宮崎先生を中心に、飯山市と長野高専とで受託・委託をしていく予定です。6月補正で予算計上し進めている状況です。まだ委託・受託契約はこれからですが、今2点ほど進めていることがありまして、一つは木島小の平田先生が宮崎先生と打合せする中で、9月に4年生の公開授業を予定しています。こちらは日程が決まりましたら、またお知らせしたいと思います。

もう一点は、公民館で小学生・中学生を対象にしたプログラミング教室を7月31日から8月2日までの3日間。10時から12時までの2時間で計6時間の開講予定です。

長野の業者に依頼して講師派遣してもらう形ですが、こちらも長野高専の宮崎先生や宮崎研究所の生徒の協力を得て、どのような形態で行うかを公民館と検討しているとこ

ろです。公民館の事業につきましては、また、プレスリリース等も出して進めていきたいと思っておりますので、お時間等あれば、見ていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。プログラミングについては以上です。

市長)

市ではプログラミング教育に力を入れておりまして、これは、先ほど説明があった ICT 教育とは、また異なります。ICT 教育は、タブレットとか電子黒板といった、先生方が学校の教科を教えていくのに取り入れるということです。

プログラミングというのは、本日、サンプルを持ってきてみましたが、これはマイクロビットという子ども向けのプログラムを組むコンピューターの赤ちゃんといいますか、イギリスでは10歳くらいの子どもたち全員に無償で配っています。それで勝手に遊ばせています。価格とすると2000円前後ですが、16 ビット程のれっきとしたコンピューターで、USB ケーブルといいますか電話線コードのようなものの差込口がありまして、システムからプログラムデータを送ると、それに対して反応するようになっています。

たとえば、今、ここにあるのは LED で、こうしたら何番目が光りなさいとか命令を送ると反応するようになっています。

それから、この機器のすごいところは、センサーのようなものがついています。そしてもう一つすごいのは、無線といいますか Bluetooth というのがありますが、あのような機能をこの小さな機器が持っているということです。

命令を送り込んであげると、そのとおりに動くという。その命令にあたるものも、スクラッチといって、いろいろな命令が小さな塊にされていて、その塊の組み合わせによって、様々な命令ができるということです。

それを、飯山小学校の先生が、授業の中で、日常のものと結び付けてできないか、ということを進めていただいています。ただ技術面等、課題もありますので、それを高専の宮崎先生や研究室と連携して何かできたら、ということです。

これをどのように授業に取り入れて使っていくかということで、現在、機器の日本代理店協力を得て、全国で200校ほどの小中学校が取り組んでいるわけです。今回、飯山市の1校にということで応募しました。全国で 20 校。長野県内では、飯山市のほかに須坂市が応募しています。

夏休み中は、子どもたちが楽しくプログラミングが学べる機会を提供できたらと考えております。思ったとおり動かないときの原因追求や、分解して金属部品とそれ以外の部品など分別する知識も、プログラミングを通じて楽しく学べるのではないかと思います。